

花仙庵 仙仁温泉 岩の湯 「ふるさとを感じる日本型理想土(リゾート)宿」

[サービス業] 旅館業

代表者名：代表取締役社長 金井辰巳

従業員数：53人

創 業：昭和34年

住 所：須坂市大字仁礼3159

T E L：026-245-2453

事業内容：旅館業

給 与：16万～30万

http://www.hitou.or.jp/hymbrsv/hymbr_pg01.html?yc=ni129

(日本秘湯を守る会公式ホームページ)

仙仁温泉岩の湯は、須坂市街地から菅平高原に向かう国道406号沿いの山間にたたずむ温泉宿です。県内外からリピーターも多く「一年先まで予約ができない宿」と言われるほどの人気の宿です。



須坂市内から車で15分程度で、岩の湯の駐車場に入ると従業員がすかさず車の誘導に走る姿が印象的です。「仙仁(せに)」とは地名で、駐車場と宿をつなぐ橋の下を流れる川が仙仁川です。この仙仁川のせせらぎと木々の緑、また季節によっては紅葉の美しい情景が訪れるお客様の心を癒しています。日常から離れた異空間で最高級のおもてなしを提供する岩の湯は、須坂市を代表する温泉宿です。

●幼少期の思い出と旅館業への思い

二代目の金井辰巳社長は現在65歳。群馬県出身で、7歳の時に家族で須坂市に引っ越してきました。

「もともとあった岩の湯の建物を両親が引き継いで経営をすることになり移住しました。昭和34年の創業以降は、お客様中心の生活に変わり、家族が揃って食事をとるのも難しい環境でした。幼かった私にとって決して満足のいく生活スタイルではありませんでした。そんな体験から、岩の湯にお越しいた

だくお客様には、普段の生活で失っていた時間を取り戻す場所としてゆっくり過ごしてもらいたい「たかが一泊されど一泊」の気持ちでお客様に満足いただけるサービスを提供しています」金井社長は振り返りながら話してくれました。



●救ってくれた哲学者ルソーの本

「東京での学生時代は法学部に所属し弁護士を目指していました。当時はいろいろな悩みを抱えていて、ある宗教を信じ頼った時期がありました。そんな時、題名に惹かれて「告白」というフランスの哲学者ルソーの本を手に入れ夢中になって読みました。反体制、反宗教的とみなされたルソーが民衆から追放され、恋愛でも不幸な道を辿った自伝です。そんなルソーを癒した島がサン・ピエール島(北大西洋の島)で、ルソーはこの島が安住の地だと書いていました。これだけの本を残す偉大な人物でも悩み苦しむ人生を送っていた「真実の一つじゃない」と気付き宗教から抜け出すことができました。現代の人が求めるのは、このサン・ピエール島のような場所なのだといひらめき、岩の湯をサン・ピエール島のようにしようと思ひ跡を継ぐことを決めました。この時は地に足が着いた心境だったのを覚えています」金井社長は、旅館業を継ごうと決心した経緯を話してくれました。



●社長が描く理想土(リゾート)宿

平成元年に新装オープンした岩の湯の客室数は全部で18室。広々とした和室とその一角にはゆったり座れるソファが置かれ、どの部屋もくつろぎの空間を感じます。



「以前から旅館が欧米型のリゾートに近づいてい
いのだろうかと疑念を抱いていました。リニューア
ルの目的は日本人としての日本型理想土(リゾート)
を創り上げることでした。この理想土は「ふるさと」
を意味します。庭の植物も私の手で植えました。今
も剪定や遊歩道の手入れを作業着になって自分がや
っています。「ひとつの町ーふるさと」を敷地内に作
りたいと思っていました。よく高級旅館だと言われ
ますが、年齢を問わず赤ちゃんや小さなお子さんの
宿泊者も大事にしています。限定せずに、どんなお
客様でも大事にできるかどうか大切なことだと考
えています」



●岩の湯での働き方

岩の湯では、お客様の接客や調理だけでなく様々
な働き方の可能性があります。

「三千坪の農場を所有しているので、野菜を作り
管理する人が必要です。敷地内にある遊歩道や庭木
の手入れなど、宿全体を見守る 70 代の従業員もいま
す。旅館業にも関わらず土日や祝日は自由に休ませ
ずし、出勤した場合は手当てが付きます。クリスマ
スや年末年始は宿自体を一斉休館にします。そうし
た休館日が年間 30 日以上もあります。自分の幼少期
を踏まえて、あくまでも家庭を大切に作る働き方を
推奨しています。子育て中であれば、子どもの学校
行事に合わせて休日を取得することもできます。お
そらく旅館の中でも働きやすい職場ではないでしょ
うか。また、従業員の研修や入社式をあえて外のホ
テルで行い、皆で勉強する機会を設けています。お
客様に対する優しさとはどういうものか、基本的な
接客マナーなど、外に出る機会を有効に使って学ぶ

ようにしています。研修会は年 3 回ほど行い、時に
は社長自らがコーディネイト役となりおもてなしの
指導をします」

フロント担当の従業員に働く環境について伺った
ところ、1 か月前に就職 
した若い女性は、以前か
ら岩の湯の喫茶を利用し
ていて、ここで働くのが
夢だったと言います。ま
た、長く勤務するベテランの女性は、歳をとっても
楽しく働ける職場ですと答えてくれました。

●岩の湯が求める人材

「求める人材は、パソコンなど機器の扱いが長け
ている人よりアナログでも真面目な人で「ふるさと
の宿」としての対応ができる方を希望します。いか
にお客様を大事に思い寄り添えるか、お母さんのよ
うな面倒見の良い人が理想ですね。旅館業を経験し
ていないの方が柔軟に対応できていい場合もあり
ます。私は東京の大学に進学したので、6 年間の都
会暮らしを経験しています。都会では得られない豊
富な自然や人の心を癒す文化がこの須坂市にはある
と思います。今でも東京は暮らす場所というより学
びの場という感覚が大きいです。きっと、ギスギス
した都会の暮らしから抜きたい人に旅館の仕事は合
うのではないのでしょうか」

今、社長はご長男といっしょに岩の湯を経営して
います。ご長男は、ルソーの唯一の安息の地であつ
たサン・ピエール島を実際に見てきたそうです。そ
して社長の夢だった弁護士は次男が叶えてくれたと
のこと。金井社長は幸せそうに話してくれました。

岩の湯では「ふるさとのやすらぎ」を求めるお客
様に癒しの時間を提供しています。ユーモアたっぷ
りの明るい金井社長といっしょに、あなたも理想土
(リゾート) を目指して働いてみませんか？

(2017 年 12 月インタビュー)